結集された力で『中立日本』を
第30回メーデーの意義

〇…メーデーがちかづきました。メーデーは年々はなやかになつています。きよ年は全国で四百六十万人が参加しました。

〇…しかしメーデーは単なる〃お祭り〃や〃パレード〃であつてはいけないのです。メーデーの歴史はいまから七十三年まえ、明治十九年の五月一日にアメリカのシカゴ市で労働者が「八時間労働制」を要求してストライキに入り、血を流して勝ちとつた〃たたかいの記念日〃なのです。日本でも第一回は大正九年におこなわれましたが、戦前のメーデーは警官のサーベルと騎馬隊にとりかこまれてひらかれたのです。そしてことしは三十回目のメーデーです。その間かかげられたスローガンは常に「最低賃金制の確立」「八時間労働制」「平和を守れ」などの要求で世界の仲間たちと固く結ばれていたのです。

〇…ですから、考えてみますと私たちは第一回メーデー以来、ずつと「最低賃金制の確立」を要求してきたことになるのですが、政府が国会に上程した名ばかりの「最低賃金法案」を粉砕し、私たちが要求している真に労働者の最低生活を保障する〃全国一律八千円〃の最低賃金制を闘いとらねばなりません。

〇…「労働時間短縮」の要求も高くかかげられなければならないでしよう。これは「八時間労働制」のスローガンに代るものですが、ことしは特に各産業ですすんでいる合理化、首切り、企業整備に強く抗議しなければなりません。それに抵抗するためには私たちが職場のすみずみからたたかいを起しメーデーにその力を結集しなければなりません。「失業反対」「社会保障拡充」の要求も高くかかげなければなりません。それらの頂点に立つ闘いとして「ILO条約の即時批准」を政府に強く要求しましよう。

〇…そしてそれらの反動的な政策の根になつている戦争政策に強く反対しなければなりません。その中心はもちろん「安保条約の廃棄」です。安保条約の改定を許せば日本の運命が決まつてしまうのですから……。当然、核武装の問題も手をゆるめることはできません特にことしはメーデーをはさんで地方選挙と参議院選挙があるのですから、岸政府の中国敵視政策を変えさせ「日中友好」を勝ちとるためにも「岸内閣打倒」のスローガンを高くかかげなければなりません。そしてメーデーに結集された労働者の力で「中立日本」を築きましよう。

映画　コタンの口笛
アイヌ姉弟の純愛を描く

【ものがたり】

北海道千歳の町外れ―千種川に沿い畑中マサ、ユタカ姉弟の家がある。秋田県出身の二人の母は既に亡く、今は駐留軍労務者の父イヨンとの三人暮し。隣家のイカンテ婆の家には工場に務めながらバレエに熱中している近代娘フエがいる。そしてこの近辺は原野の中をコタン道路が走り、コタンの家が点在している。マサは中学三年生、ユタカは中学一年生だ。ともに自分たちの体内にはアイヌの血が流れているということで悲しい負目を受けている。

ある日マサのクラスで級友の財布が失くなつた。

当然のように疑いの目がマサに注がれるのは彼女が貧しいからか違う、彼女がアイヌ人だからである。

ユタカのクラスもゴンとサボのような奴がいる。彼等はユタカがアイヌ人だということだけでわるさをする。いやアイヌ人だから、自分らと血が違うからこそ劣等視する。

しかし、こんな奴等ばかりいるわけでもない。図画の谷口先生、小学校々長の田沢先生やその息子で大学生の清、他に級友たちにもたくさんの正義派がいる。清がフエと肩をならべて歩く仲の良い姿が千種川の花火大会で見られた。美貌の彼女を写した清の友人の作品が札幌の写真展で評判を呼んだイカンテ婆さんはこの孫娘をぜひとも清と結ばせたかつた。

田沢先生のところへ出向いたイカンテ婆さんは体裁よく断わられた。これはイカンテにとつては大きなショックだつた。更にフエにとつては堪えがたいものだつた。

谷口先生の送別会の夜マサたちがうたう「ウエーパーの狩人」の合唱が貧しい部屋から静かに戸外に流れていく星がきらめいていた谷口の差し出した手を両手ですがりつくように握りしめたマサのほほに涙がこぼれ落ちた。

（十五日より太陽館・金映で）

姿見
主婦と平和運動
三川　永江美由紀

「民族の自由を守れ　決起せよ　祖国の労働者」と今日も私たちは真に腹の底から叫ぶのです。敗戦からもう長い月日がたちました。空襲の焼野が原にたつて、私たちがただ一つ心に誓つたことは、もう二度と戦争はいやだどんなことがあつても平和にくらしてゆきたいという願いでした

ところが、あれから十三年、一応町は美しくなつたものの、私たちの身のまわりにはいつも不安がつきまとつています。「教育是正」の名で勤評が強行し、公共の安寧と秩序を維持すると警職法改悪を一気に押しきろうとしました。

さる国会において岸首相は、社会党代表質問にたつた勝間田議員の追及に「一切の核武装をしない」と再三確認しましたが、社会党はこれを具体化するために「非核武装宣言」を提案したのですが、政府自民党はこれに反対しました。

どうしてこんな矛盾した態度をとるのでしよう。いま安保条約が国民の目のとどかないところで秘密のうちに改訂されつつあるといわれます。この改訂の目指すものは、〃自主〃〃対等〃の立場をつくるというゴマカシで、アメリカへの軍事的協力体制を強めるといわれています。

こうした情勢の中で日本平和大会がひらかれました。この大会は国際的に見て、資本主義国の陣営は政治的にまた経済的に動揺をふかめ後退しつつあり、一方社会主義陣営はすばらしい発展をとげており、平和勢力は増大しつつあるという明るい希望をあたえてくれました。

私は平和を愛する人たちの協力によつて大会に出席しましたが、平和を守る運動がどんなに大事なものであるかを教えられ、私たち生命を生み出した母親こそが真剣に平和運動にとりくまねばならないと痛感しました。昨年の七月、平和行進に参加した私は、はじめてその行動の中から母親の責任としても戦争を防ぐ力になりたいと思つたのです。

私は、三月一日にひらかれた原水爆禁止焼津大会にも参加しました。久保山さんの肉体は亡びていてもその魂は多くの人びとに「平和」を呼びかけており、私たちは被害国から加害国にならぬよう、再びこの悲しみを繰返さぬため原水爆反対の決意をかためました。また、罪もない一漁夫の生命をアメリカの水爆実験が奪つたことに人ごとでない悲しみと、心の底から怒りを覚えました。

東京杉並の一母親が叫んだ「原水爆をやめてください」という声が、大きく原水爆禁止運動として発展しました。この運動は、かならず原水爆を禁止し、平和を闘いとる大きな力となるはずです。それは人間が造つた危機だからです

生活を守り平和を守るため私達は台所と直結する政治に目を向けしあわせのために頑張りましょう。

雑記帳 (15)
皇太子の結婚
夢声と大江の対談を中心に
阿蘇三郎

皇太子の結婚について某商業紙が、徳川夢声と大江健三郎の対談をのせていた。老年と青年、保守と革新の対決である。夢声は政府の代弁者のように肯定し、それを批判するは不敬とし、一人二千円の宴会費は一般なみで、ぜいたくでも何でもないと仰有つている。

大江は「関心はない、どうせ天皇制はつぶれるんだから―」とうそぶき、「天皇制は虫歯だ、明治時代には役にたつたが、もう抜くべきだ」と、明快にいい切つている。あのするどい知性を感じさせる、諷刺の利いた作品をかく大江にしては、すこし素朴すぎるほどの割切りかたである。皇太子の結婚に関心はないというほどだからすべて否定的で、結婚問題よりむしろ、天皇制をテーマに談じていた。

私は夢声の発言に相当抵抗を感じた。肯定はやむをえぬとしても二千円が一般なみとはどんな根拠でいうのだろう。私はこの十年のうちに四組の結婚を媒酌し、ほかにもいくつかの結婚に関係したが一人の宴会が千円を出たと思われる婚礼は経験していない。もちろん夢声と私とでは生きている社会つきあつている階層がちがうから多少のくいちがいはあるにしても一般という標準からすると、二千円はずいぶん高いし、実際はそれで済むものではあるまい。事実皇太子の結婚式は一日三億円のショウといわれている。

だが、それはとにかくとして私が考えたいのは、その費用の出場所と、彼と人間的に無関係の人民に慶祝を強制する政府の態度と、それに協調する一般商業紙のオーバな宣伝である。政府は「国をあげての慶祝」のどさくさまぎれに安保条約を通そうとか、資本主義の守護神である天皇の崇高さを、この際大いに国民の心に植えつけよう―とかの野心があるのだから当然だが、日本を代表する中央紙まで政府の尻馬にのつて、何だかわけのわからぬ古語ばかり多い式典や、その日の彼らの衣服まで写真いりでまくしたてるにいたつては怒るよりむしろ呆れてしまう。

結婚当日に参加者がかぶるシルクハツトを外国に註文したり、巨額を投じて道路を修理したり、二億円を投じて豪荘な御所を新築したり、皇太子の結婚に要した金はどれだけの巨額に達しただろう。それだけの金があれば、彼と同じ位の年令の全国の結婚適令男女で経済的理由だけで結婚できずにいる男女が、何万組華燭の典を挙げられるか判らない。

儀装馬車に投石し、皇太子を引きづり下そうとした十九才の抵抗は、多くの共感を呼びおこした筈だ。

「人間は生れの如何に拘らず平等な権利をもち、社会福祉を享受し得る」というのは、いまや人類全部の常識である。まだ何にも社会のためにも国家のためにも働かなくて、国民の血税で育ち、教育を受け世界的豪華な結婚式までしてもらつた皇太子に何もやましい気持ちがないとすれば彼は近代人としての人間感覚が欠如しているのであろう。

大江健三郎がいうように、皇太子が正しく近代青年であるならばやはり天皇制の非現代性、非科学性を認め、自らその廃止を決行すべきだろうと思う。そうしたあとの彼こそ本当の日本青年であり、知性をもつた近代人といえるであろう。

正田美智子の皇太子妃受諾も、あれほどの常識をもつた近代女性として全く納得のゆかぬことである。

彼女は結婚を前に、立派な人間になりたい、人のためにつくしたい―といつているが、そうした女性らしい、自己犠牲奉仕の気持が昂じて受諾となつたとしたら、不幸であり、悲劇である。私は彼女にいま、皇太子を将来天皇制から解放し、ふつうの人間に還元したい夢をもつて受諾したとするならば高く買うが、彼女にそれだけの人間的な高さは期待できないようである。

大江健三郎は皇太子の結婚に「関心がない」といつたが、それは一種のポーズではないか。私は大いに関心がある。―それを慶祝したい人間や、利用したい人間とは別な意味で―。

×　×　×

（一九五九・四・一〇）

私たちのたたかい
通松　上村一子

四年生の悪坊が遊びから帰るなり「兄ちやん。なんねなんね、牛乳二本ものんでストよストよ父ちやんなキザミのみよらすとよ」食卓の上に牛乳の空ビンが二本あるのをみて弟が兄をたしなめている

一月十九日、会社の不当な企業整備が出され、私たちは長期闘争を覚悟し、生活費もぐつと切りつめ、子供たちの小遣いも話合いで減らし、文字通り家族ぐるみの闘いをつづけた。

炭労の同志とともに無期限ストにはいつた二十三日細谷市長から闘争激励を受け、私たちの感激は一入であつた。きけば荒尾市議会は三井再建案反対の決議があり、大牟田市議会ではその動議否決の醜目を見たとのこと。私は絶叫したい。失業都市大牟田の汚名は三井の責任だ!!ひとりよがりの会社議員!!と。ここで私たちは経済闘争と政治闘争は切離すことのできないことを改めて痛感するのです

私たちはいま、選挙闘争に勝つことが重要問題です。私たちは平和な明るい大牟田のために絶対市会へ二十余名の議員をおくらねばならない。それには私たちの代表をみんなで守つて全員当選させなければならないことは勿論です。

前回の選挙のときのこと、「〇〇候補は落ちようがない、虫が好かない」とか、落語家と政治家と間違えたような批判の出たことを思い出す。今度はそんな心配はないと思います。主婦も目覚めました。正しい判断力で働く者の代表をえらび、明るいゆたかな政治をきずきましよう。

なかまの本棚 (27)
闘いの中での必読書
「労働者の社会科学」基礎講座

私たち労働者は毎日の生活にたいしてさまざまな不平不満をもつています。現実の社会がそのままでよいなどと考えているものは、おそらく数すくないにちがいありません。とくに賃金問題では、もつともつと増額してほしいという点で、みんなの気持が一致しているはずです。

こういう不満からぬけだすためにどうしたらよいのでしようか。私たちがひたいに汗して働いてもいつこうに生活は楽にならないその原因はどこにあるのでしようか

搾取するものと、搾取されるものとの関係を、いろいろな面から誰にもわかりやすく、講義式にまとめてあるこの書を読んで、資本主義の矛盾とからくりと馬鹿馬鹿しさを感じずにはおれません。

私たち労働者が資本家から搾取されているということは誰でも知つているようで、実際には決してそうではないように感じます。

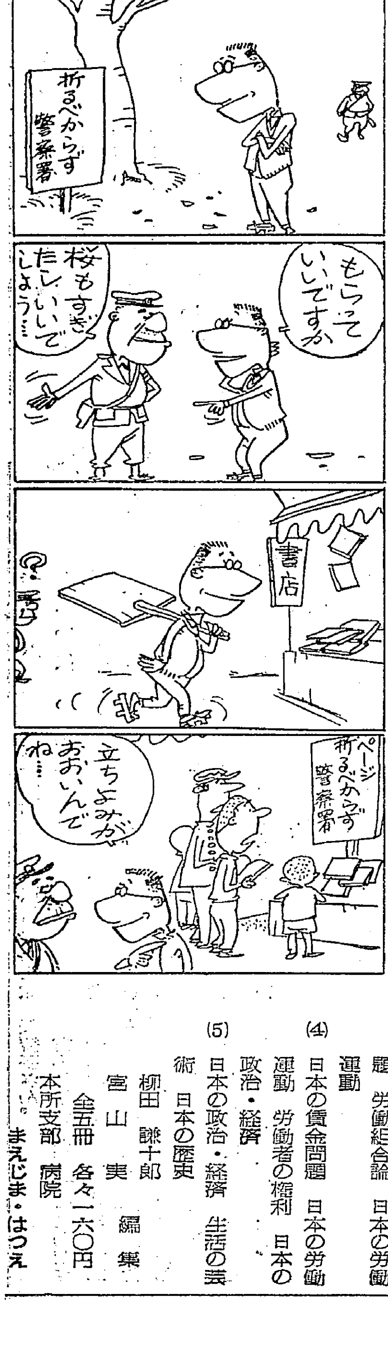
三井の資本家といわず、どの資本家も絶えず会社あつてのあなたたち（労働者）であり、私たち（資本家）とあなたたち（労働者）は親子関係にあるといつていますが、それは私たちの闘争力をいちじるしく弱めています。

私たちは、なによりもまず労働者階級は資本家階級によつて搾取され、収だつされており、労働者と資本家の利害は相反し、私たち労働者の文化的生活は資本主義のもとでは十分に向上させることはできないということをはつきり知らなければなりません。それを早くはつきりとつかむことによつて私たちは正しい人だという信念で闘争を最後まで闘いぬくことができると思います。

生産過程で利潤が生みだされていくこと。資本家が私たちを喰わしているのでなく、逆に私たち労働者が資本家を喰わしていること、私たちが長年にわたつておしえられてきたことが、ぜんぜん逆なことであり、社会がいろいろな矛盾にみたされていること、それをとりのぞくことは闘いの積み重ね以外になく、また闘わなければ取り去ることのできぬ資本主義の法則をおもしろく教えてくれます。この書はたくさんの人たちがお読みになつていると思いますが、いまだ読んでいられない方にぜひ必読書としておすすめしたい本です。

(1) 常識から科学へ　働く者の考え方　経済学の基礎　婦人問題
(2) 働く者の考え方　経済学の基礎　労働組合論　戦後の農村
(3) 経済学の基礎　日本の賃金問題　労働組合論　日本の労働運動
(4) 日本の賃金問題　日本の労働運動　労働者の権利　日本の政治・経済
(5) 日本の政治・経済　生活の歴史　日本の歴史

柳田謙十郎　宮山実　編集　全五冊　各一六〇円

本所支部　まえじま・はつえ

ミスター つるはし
中村かめお